

# 愛知 博物館

1972年 No. 18



愛知県博物館協会

## 目 次

磐舟文華博物館と清水園	大 原 紋三郎	1
学芸員研修会報告	鈴木 隆美	2
国際博物館会議（ICOM第9回大会）に出席して	広瀬 鎮	4
「第19回全国博物館大会」に出席して	岸田 幸子	7
韓国の博物館を見て	金子 功	8
昭和46年度事業報告		10
昭和46年度決算書		11
昭和47年度事業計画（案）		12
昭和47年度予算（案）		12

## 磐舟文華博物館と清水園

大原 紋三郎

本年の県外研修会、即ち3日間の新潟県内博物館めぐりも、6月24日の長岡科学博物館、長岡郷土資料館の見学をもって一応終了し、あとは自由行動となった。

同行のうち佐渡で別れた津具一行の8名以外は、全員湯沢へ一泊して、新潟県博物館協会の大会に参加したのであるが、私は一人だけ別れて新潟市へ戻り此處に一泊した。それは村上市の諸上寺境内に設けられている、磐舟文華博物館を見学するためであった。

村上市は新潟市から羽越本線で、約60キロ北方の山形県に近い所、また自動車なら新潟から秋田へ通ずる国道7号線上にある、重要都市である。こゝは、その昔、蝦夷に備えて磐舟柵を設けられた所で、市内には徳川幕府の雄藩として知られた村上城址、諸上寺公園、展望台、また海岸には笹川流れ、御まく場の名所や瀬波温泉街がある。

諸上寺はこの瀬波温泉の近くで閑静、幽邃の地にあり、広大な境内の中に大きな伽藍を構える曹洞宗の寺で、かや葺きの広壯な本堂や、自然と人工の調和を得た立派な庭園には目を見張らされたものであった。

さて磐舟文華博物館は、昭和40年に齊藤誠一氏が、地方文化振興のために私財を投じて、この諸上寺境内に建設されたものである。新潟県北部の古代遺跡の出土品を始め、生活文化、民俗歴史に関する数多くの資料が納められていた。考古資料としては、土器、石器など縄文、弥生時代の出土品から、土師器、須恵器に至るまでのものが、系統的に誰にでも分かる様に展示されており、また此の地方が陸運の発達する以前は、物資の交易には廻船がこれに当っていたので、海運関係の資料が豊富に展示されていた。

この地方の特産品としては鮭、茶、堆朱堆

黒などがあげられる。鮭は三面川の鮭さらい及び沿岸の鮭網は大規模なもの、茶は我国最北端の産地として知られ、昔は北海道、庄内、加賀方面へ移出されていたという。特に堆朱や堆黒は新潟県無形文化財に指定され、文政年間からの伝統と良質の漆にめぐまれ、昔から多くの名工巨匠が生まれ、村上堆朱として有名である。そのため漁業の資料、製茶の資料が数多く展示され、堆朱や堆黒の資料には特に注目させられたものであった。

磐舟文華博物館の帰途、私は新発田市へ立寄った。それはこの旅行の最初の日、即ち新津（沢海）の北方文化博物館を見学した時、この町に清水園のあることを教えられたからである。この清水園は旧新発田藩主、溝口氏の下屋敷であったのを、越後の大地主、伊藤文吉氏が譲り受け、北方文化博物館同様、一般に公開されたもので、新潟県の重要文化財に指定せられている。

庭園には中央に水字の大泉池をうがち、清らかな水を溝々と湛えて池畔の常緑を映し、4,600坪に及ぶ広大なもので、様式は近江八景をとり入れた純京都風の作庭で、江戸時代の大名の廻遊式庭園として、北陸には他に比を見ないということである。

池に面して寄棟瓦葺き、平家建80坪の座敷、15疋の次の間、5棟の茶室を始め、沢山の建物がある。園内にはまた、大きな旧米蔵を改造して資料陳列室が設けられ、旧藩主関係の資料、考古民俗資料、美術品などが豊富に陳列してあった。

なお、新発田城址は、現在自衛隊の駐屯するところとなり、表門と隅櫓が残っていて、共に重要文化財に指定せられていた。また最初、見学の予定になっていた、時間の関係で割愛した新潟税關の建物は、新発田市の足軽

長屋と共に、目下大改修中で、いづれも小屋掛けになっていて詳細は見ることが出来なかつたが、文化財の保護に熱心な有様を見て私

は、大変うれしく思ったものであった。

(大原薬業館館長)

## 学芸員研修会報告

鈴木睦美

3月8日(水)、昭和46年度愛知県博物館協会主催の学芸員研修会が、博物館明治村で催された。明治村の特別のはからいで、会場は村内「東松邸」があてられた。

吹き抜き明り窓の通し庭をぬけ閑静な坪庭から2階座敷に案内される。ここは、町屋形式そのままを今に伝える部屋である。印ばんてんの宮外さん(学芸員)ほか明治村職員の服装にも、博物館明治村としての思考があり、遠くなつた明治を偲ばせる。欧化主義から独自の文化様式を創りあげた明治初期のこの邸は、宇宙時代の今にあっても、合理的で心の安らぎすら感ずるのはどうしたことだろう。こんなところにも明治の立派さと思う。明治村ならではの会場で、「愛博協」研修会として意味あるところで、しばし、明治人の生活を偲ぶ。

風通しよい無暖房の座敷は、馴れない現代人にとては、やや厳しい試練?でもある。襖、紙障子を閉め、煙草ほん(灰皿)の前に落ちつく。正直なところ、ガタガタ震える寒さであった。がしかし、抹茶、焙じ茶、菓子のサービスに明治文化を偲びながら、寄せる寒さに辛抱する。

明快で手際よい広瀬さん(モンキーセンター学芸部長)の司会は寒さも忘れさせるものであった。初顔あわせもあり、自己紹介から開会。明治村、モンキーセンター、岩田洗心館、向山天文台、熱田神宮宝物館、名古屋科学館、荒木集成館、協会事務局、教育委員会の13名、多くない人数ではあるが、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学を網羅するメン



バーで、それに固苦しさのない親密感のある実質的な研修会となった(司会の力量もある)。

明治村の杉浦事務長さん、野田係長さんの歓迎の言葉に統いて予定どおりの研究会に入る。

学芸職員研究発表 10:00~11:00

「資料の整理・分類・研究をめぐって」  
太田正弘(熱田神宮宝物館学芸員)

宝物館としての図書分類、寄託図書(和本)の分類の説明、ファイル資料、その他の資料の分類、太田さんのあみだされた「カード兼用封筒方式」と実態に即した秘法の紹介、名まえのつけかた、分類のむつかしさなど。宝物館に対する深い見識と、やる気に頭がさがった。さらに収穫は、氏の発表を糸口に、各館それぞれの独特な方法、資料あつめの発表があり、広瀬方式、大竹方式、金子方式、永田方式・・・と活発な交換がなされた。私はもっぱら吸収する受けいれ側で、今の仕事に役立つことばかりであった。

講演 11:00~11:50

「韓国の博物館をめぐって」

金子 功（豊橋向山天文台長）

韓国では、文化広報部、文化部の独立（わが国の文化庁）で文化行政特に文化財保護行政のしっかりしていること、博物館施設の現状（相当の予算で国立施設）、対日感情など内容の豊富な話してあったが、予定の時間より実際には短かく、先生の午後の講演（岐阜）日程で昼までには終りたいとのことから、「序論」程度に終ったことは大変残念であった。（それでも熱がはいって20分程度サービス）またのチャンスをお願いして午前の部を終了した。

太田・金子両先生に心から感謝。

「東松邸」をあとに、暖房効くホテル食堂貴賓室に案内された。それは現代建築ではあるが、自然を生かした調和のとれた建物で、内部もゆったりとゆとりをもたせ、シックな仕上げにも明治村の品位がある。

正直いって、毎日暖房の中に生活する私にとってこの現代に入りほっとする。（もっともそれは温度だけのこと）ヒーターの効いた部屋であったかい味噌汁はご馳走であった。明治の氣骨さに感心し、現代人（私自身）の軟弱さを反省させられました。ともあれ昼食会は更にお互いを親密にし和やかな交歓の会となった。

午後は、野田係長さんの明治村の現状の説明を聞く。その後、宮外学芸員の案内で、予定の村内見学をする。

仲春、年度末は何処も閑散であるが、ここ明治村は広い村内も学校その他見学者で賑っていた。しきつめられた碎石の道路には塵一つなく、カラカラ天気に芝生や道、植込みの散水にもいきとどいた配慮を見る。大きな施設にもまして管理の立派さに驚ろく。少人数でいきとどいた管理は大変なことだろう。宮外さんによれば、谷口館長はじめ職員は、

一つの塵も拾うよう努めておられるとか。すいがら入れの土管もよくいきとどいている。文化財保護の精神を明治村に見て快よく思った。文明開化を心として、心ない者によって乱されないことを念ずるものである。

開村来、入村者は既に830万人を数える。この18日で7周年を迎える。明治の由緒ある建物はすでに33件、39棟が移築されたが、今年は、京都河原町天主堂など6件が移築工事中で、そのうち3件は記念日までに完成、初公開される。入鹿古墳前に復元された幸田露伴邸の蝸牛庵、北端の前橋監獄近くに移築された金沢監獄、東京駅前交番で今その仕上げを急いでいた。

蝸牛庵は、文学者の旧邸として漱石邸、小泉八雲焼津の家に次ぐ3番目である。

金沢監獄は、中央看視所と獄舎第5房からなり、中央看視所は最上層にお城の物見のような望楼のあるいかめしい建物。東京駅前交番は8角形のカッコいいものである。何れも幾多の暗い悲しい歴史を秘めている。監房の窓はなく荒い格子のふきざらしに驚ろく。不幸にして、工事の足場で入獄許可が得られず残念であった・・・。近くの池の白鳥二羽は夕陽に映え、求愛のディスプレイを見せていたのは対象的光景、洗心館の先生の懇切な説明にどっと笑いがもれる。

桃の蕾、柳、草の芽、薺の芽天然自然の明治村にも岸青む春も間近か。思わず小学唱歌を口遊む。明治を楽しむうちに、いつか4時をまわる。宮外さんにはすっかりお世話になる。感謝感激、ありがとうございました。私たち見学につられて遂に一周をしてしまい足は棒となったが、最も元気だったのは明治生れの洗心館の先生だったことを特筆する。明治に名残りを惜しみ、岸田さん（文化会館愛博協事務局）と、荒木さんの車にのせていただいて帰途についた。

皆さんの学究的で、和やかな雰囲気に接し一日の収穫は大きなもので、それは寒さも忘

れさせていました。このような有意義な会に  
更に多くのご出席をお願いしたい。

(愛知県教育委員会文化財課)

## 国際博物館会議（ＩＣＯＭ第9回大会） に出席して

廣瀬 鎮

パリー、グルノーブルにおいて第9回イコム（国際博物館大会）が催されることになり、イコム国内委員随員として、私はこの会議に出席しました。この大会の概要について御紹介してみたいと思います。

1971年のフランスにおける今回の大会は、これまでにひらかれてきた会議よりも、一段と視野をひろげ、博物館の社会的役割りが論じられた所に特色があります。しかもその大会開催のテーマも「人類の奉仕における博物館の今日と明日—博物館の教育一文化的役割」となっておりました。

大会は、1971年8月29日から9月10日まで、パリーとグルノーブルでひらかれたのですが、地元ということもあってフランスからの関係者の参加は多数でした。参加者は600名をこえ参加国60余国という盛況で、国際委員会の専門委員会も17部におよび、それぞれの専門分野にわたりて、協議がおこなわれたのです。これ等は博物館相互の情報交換のための場ですが、全部に出席出来るというわけのものではありませんので、私は、教育と文化活動委員会に出席しました。各国の博物館とも視聴覚教育と教材開発、教具考案には、研究や工夫をかさねているということがよくわかりました。

博物館教育と博物館に関する討議では、他の関連諸科学と有機的なむすびつきをはかること、学校教育以上の力を發揮するための教育体制の確立の必要性などが論じられましたことは興味があります。幸い私は「科学と技術委員会」の招待をうけ、パリー発見の

宮でひらかれた研究発表会に参加いたしましたが、ここでも科学教育の方法、組織的科学教育の手法をめぐっての論議がおこなわれ、発見の宮の科学実習教育の実態紹介などがスライドでなされました。

なにしろ、世界各国の博物館の専門家が多数参加し、広範囲の問題を論じられるわけですが、9月2日までの間、つまり大会のはじめの部分で専門委員会ごとの研究討議がなされているということは大へん能率のよいことで、後半の総合討議にかけたり、重点的な協議をするためにも便利な方法だと思います。それぞれに博物館専門施設をその間に見学したり、現場において意見交換をおこなうですから出席者の関心は、特にこの前半の会合によせらるるのは当然だと思います。私自身は全面的に各会合に参加することができましたのでかなりこまかい点で、各国の専門家が博物館について何を考えているかを知ることができたと思います。

開会式が9月2日におこなわれ、仏国文化大臣デュアメル氏 (Jacques Dahamé) よりの講演他、フランス博物館協会議長シャテリン氏 (Jean Chatelain) 他の挨拶議事進行の説明などがなされました。この日はＩＣＯＭ日本国内委員会会友11名も開会式に参加しました。なかなかにぎやかでした。9月3日4日とはパリーから特別列車での視察旅行が用意されておりましたが、車中にて色々と、よその国の博物館人の仕事や考え方を伺うことができたことも楽しいことでした。デジョンやビュンヌの町では考古学博

物館や織物博物館などをフランス博物館協会の学芸員の案内で見学してまわりましたが、見事な解説です。ピュンネでみましたブドー酒の博物館も歴史の古さ、ブドー酒づくりの伝統・技術をあますところなく紹介しておりました。各施設とも大がかりな資料収集がてつていて的になされ、それらを出来るだけ沢山みせようという気持にあふれていきました。いずれの館も大歓迎で、我々をむかえてくれました。美しい展示物、おだやかな文化的な雰囲気の中でレセプション、資料の鑑賞など、まことに心にくい演出でした。9月5日からは全体研究討議がはじまったのですが、そのうち7日には諮問委員会と執行委員会がひらかれましたので、一般参加者はシエンベリーへ施設見学旅行へでかけました。アジア代表者会議が、9月5・6・7日と連続3回ひらかれまして、活発にアジア地区の博物館情報の交流について協議をいたしました。インド・セイロンの代表者が活発な発言をしておりましたが、今後地方連絡センター活動を中心にして相互の交流、出版活動などを行なうことになったことは良いことだと思います。とくに分科会研究発表は毎日200名以上の参加をえて盛況でした。印象にのこった話題には、'博物館研究の重要性と展示の展開とサービス'についてのスタンスラス・スペロ・アドティブ氏の講演や、'USSRにおける博物館現状・博物館の社会的役割'についてのスピーカーM. バンディキング氏、'産業の発達と科学博物館の役割、市民教育の重要性'のドナニー博士、そして'アメリカにおける特殊博物館活動の実際'、キナード氏等の問題提議にかかる講演が、極めて説得力のあるもので、引つづく指名演者による関連調査研究報告は具体的な活動報告もふくめて現在の各国の博物館の事業内容を明確にしめしてくれるものがありました。博物館の目的と機能に関する自然環境保全の重要性の主張と博物館の使命や、博物館と環境に関する地域のサ

ービスセンターとしての博物館役割りの再確認は十分参加聴衆に支持されましたが、博物館と科学知識をめぐる考察の中で、知識というものが人類共有のものであり、博物館は市民の働きかけを活発にし、市民の情操教育向上のために仕事をすすめるべきであるということが幾度も論ぜられました。一般オブザーバーからの体験的発言は博物館の性格のちがいもありますが、日本でも話題になる諸事業紹介でそれぞれユニークでたのしいものでした。博物館の役割りをめぐる討議では、美術館の仕事や、出版物やラベルの有効性が話題になりました。また博物館と社会教育をめぐっては、物と人とのむすびつきを試みる成人教育プログラムの樹立の問題とその教育内容の分析の加能性が検討されました。学習興味の持続のための試み、労作創造教室の実験例などがスライドや映画で紹介されましたが、どこの国博物館も一生けんめいだなと思われました。私が強い感動を覚えたのはキナード氏のアメリカの特殊博物館の活動例を映画で紹介された時ですが黒人社会の中で意欲的に活動している彼にはぜひ話しかけたいと存じておりましたところ9月9日の夜グルノーブル市内にあるドウフェニス博物館見学の帰路同氏と色々と話しができました。黒人社会の中での彼の仕事は偉大であります。また、教育問題をめぐっての討議は、教育活動と資料のコレクション、教育専門家や解説者、教師、博物館教育者養成が当然話題になっておりましたが、こまかい点では、それぞれの国の事情や、博物館種のちがいからくるニューアンスのちがいもあってわかりにくくものもありました。ほとんど仏語で語られ、せっかくつけられた同時通訳も必ずしも有効ではありませんでしたが、博物館の機能をめぐる極めて理念的な問題意識の展開と博物館の文化施設としての社会へ果す役割り、つまり文化活動のすすめ方についての話題のまとめ方ともう一つに成人教育における博物館

の事業、そして最後に博物館の教育者と教育活動に焦点をあわせた全体研究討議の構成と運営はなかなかよくねられた研究会の運営だと感心もさせられました。もっとも、中心となる問題点に関する指名されたスピーカーの話題展開はからずしもうまくかみあってはいないものもありましたが、引つづく自由討議でのオブザーバーの発言では、それぞれ問題に限らず細かく話題を出してくれましたので一応参加者それぞれの心の中にある問題意識はかなり打ち出されていました。私は総会と閉会式そして新執行委員会にも出席しましたが、登録の開始、そして開会式から最終日までのこの大会の運営はほとんど第8回大会の形式をふんでおりまして大会も一応の形におさまって、マンネリ化してしまった感じがしないでもありませんでした。この総会においての規定の一部変更をめぐる全体討議は大へん興味ぶかいものでした。発言権のある委員達は積極的に発言を行ない、ささやかな云いわし、意味のとりちがいなどの指摘をふくめて条文が逐条に審議されていきます。然し会友の有志代表からの委員権利義務に対する多様会友の権利についてのとりあつかい動議が出されましてこのため議事がのがれ決が2回にわたってなされるほど議事がふんきゅうしました。会友に対して私も委員同様に会議の内容を十分しらされ、各委員会にもっと直接的に参加しうる方式を打出すべきと考えますのでこの論議を重視しております。ICOOM会議も体質改善の機にきております。執行体制も今後かわらざるをえないでしょう。

次回第10回国議はデンマークにきまりました。ICOOM会長挨拶、事務局長への謝辞、閉会式がおこなわれ、無事大会は終了しましたが、1時間も新執行委員会の開始時間がおくれてしまいました。日本の福田・岡内委員

長がこれに出席、次の3ヶ年計画、予算その他の執行部からの引継ぎが協議されました。今日の会議については部分的にテープをとっておきましたし、沢山の方々にお会いし、貴重な各種情報を得ましたので、どしどし御紹介申しあげて何かのお役に立ちたいと存じております。

ここで今回の会議全体細部を通じて、内容をめぐっての論評を加えておきますと、特に今回の会合を可能な限り全体的にも、細部にわたっても知りたいと私は努力しました。会の運営での連絡や会場手配などは、我が国学会の方がよほど親切で、むしろ親切すぎるくらいです。なれない異国人にはフランス的な独善・個人主義の考え方によつつかされることもありました。日本の博物館界がICOOMについて正直にいってあまり知らされていないということが世界における日本の博物館の地位を不適にひくめています。私共の国の全国博物館大会は、決して世界レベルからかけはなれて水準の低いものでもつまらないものではありません。それだけに今回は単なる随員として、会友としての出席であったことも悔れます。私は「地域と博物館構造論」を英文でまとめて参りましたが、とうとう発表の機を失しましてざんねんでした。次回には研究発表者、会議調査員、情報交換係員をふくめ10人の正式参加できるようならゆる努力をはかるべきでしょう。

私は、この会議のもつ意義にすでに十分ふれられておられる数人の先駆の方々が、さらにICOOMについての御紹介や、討議を行なって下さることを強く希望したいと思っています。

以上

( 筑者  
( 日本モンキーセンター附属博物館学芸部次長 )

## 「第19回全国博物館大会」に出席して

岸田幸子

全国博物館大会に初めて参加することが出来たのは、矢張私にとって有意義だったと思います。愛知県文化会館企画課美術係に席をおいて3年余、その間愛知県博物館協会の事務の担当者として、全国博物館大会には勿論関心をもっていたので、はからずも参加出来たのは幸ありました。初参加者の感想を次に述べたいと思います。

第1日 10月25日は、まず開会、日本博物館協会会长挨拶等型通りにすんで、午前中のシンポジウムは「博物館と生涯教育」のテーマで、講師は文部省社会教育官の諸岡和房氏、川崎市教育委員会の岩淵英之氏、佐野美術館学芸員の渡辺妙子氏の3氏がありました。このテーマは今更いわれるまでもなく、以前から唱えられてきたことですが、テーマのとりあげ方よりむしろ、講師の選び方、講師のテーマに対する意識に問題があったようでした。一実際活動の立場から一の渡辺さんは熱意をもって経験から多々述べられ、聴衆の心をとらえられたのですが、外の2人には正直がっかり、全くお役人だナアと思わされました。諸岡氏の「自分は講師として壇上に立ちたくなかったのだが、要請されてやむを得ず出て来たのだから・・・」という意の暴言には腹を立てるよりあきれてしまいました。社会教育行政、博物館行政というものを考えさせられると同時に、博物館人もこのようなことを、このような場所で言われてしかるべき者の集りであるのかナアと思いました。あとはあり当たりの観念論で、興味をもてずうとうとしておりました。

午後のシンポジウム「博物館設置の現状から見た諸問題」は、講師によみうりランド水族館の三上進氏、サントリー美術館の福永

重樹氏、鎌倉国宝館の三浦勝男氏と、共に学芸員の方ばかりでしたので、教育行政のあり方とか関係法の法的な不備等について指摘されての話が、実際面にわたり身につまされる話だけに、悲観的なムードが内容よりも気になってしましました。

夜は希望者だけで学芸員懇親会を開き、私も何でも見てやろうという気持で参加しました。4・50人も集ったでしょうか。自己紹介をまず一通りやり、博物館における研究組織について、学芸員の組織についてなど意見がかわされました。親密なうちうちの会合のようで、初めての私は会費が少なかったせいか会食も不足でいささかしらけました。

2日目は現地セミナー。3コースに分れてバスによる見学でした。私はAコース鎌倉江の島方面博物館の見学に参加しました。鎌倉近代美術館、鎌倉国宝館、江の島植物園、江の島海獣動物園、マリンランド、水族館と1日かゝってかけめぐりました。外にBコース三浦半島方面、Cコース横浜方面となかなかよい企画で、施設に恵まれた神奈川県ならではで、順番に出張してくる大会参加者にとって、大事なおもてあてでもあったろうと思われました。神奈川県近代美術館での小山富士男氏の解説による「私のやきもの展」鑑賞もさることながら、江の島海獣動物園でのとても生物と思えない風船で作った化物のような全く大きなミナミゾウアザラシに驚き、いつまでも飽きず見ていました。矢張百聞は一見に如かず、自分の眼で見るということは有益だと思いました。

翌27日は最終日、まず午前中は分科会で4つの分科会が行なわれました。第1分科会博物館と情報、第2分科会 博物館の教育活

動と自然保護、第3分科会 博物館職員に関する諸問題、第4分科会 博物館管理に関する諸問題で、私は第3分科会に出席しました。講師は群馬県立博物館の池田秀夫氏、大阪市立博物館の平山敏治郎氏、大阪城天守閣の渡辺武氏の3氏で、前の2者は管理部門からみた学芸員の問題、研究職としての学芸員の身分、現行法との関係、職務について問題提起をされ、渡辺氏は学芸員の現状と要求と題して現場学芸員の立場から仕事面や待遇面について数々の問題提起をされ、のち討論がなされました。多くの方の発言を要約すれば学芸員自体の質の向上をはからなければならぬこと（資格取得に関して問題がある）、学芸員の研究職としての身分の確立及び待遇の改善がなされるべきである、という2点に

つきると思われます。

午後はいよいよ全体会議、閉会。開会の時には広い横須賀文化会館大ホールも後の方まで参加者でうまり、胸に花をつけた人も多く華やかだったのに、閉会は人々がまばらで、議事運営もすべらかでなくてよけい気勢があがりませんでした。内容はともかく大会は無事終りました。

大会とは大体かくの如きで、年一度のお祭とみてもよし、主催者には大変なことだと思われます。私は気楽な一参加者として感情的報告をいたしましたが、それでも大会の意義は認めていますし、私の体験では個々に初めて逢った人々と触れあうことが出来たことが一番有益であり楽しくもありました。

（愛知県文化会館勤務）

## 韓国 の 博 物 館 を 見 て

金 子 功

### ・ 国立博物館

韓国の博物館は日本の博物館の様にバラエティに富んだものでなく主として人文系、美術、歴史考古を中心としたものが大部分で、それも国立博物館か昔の三韓時代の高麗、百濟、新羅のそれぞれの首都に設けられております。

ソウルの徳寺宮の中に本館、新羅の都であった慶州百济の首都、公州、それに百济最後の首都であった扶余にそれぞれ分館があります。

本館のある徳寺宮はソウルの中心街に近い森の公園と云った感じの所で、韓国風の宮殿のほかに石造二階建の宮殿があり、これが博物館になっております。

名古屋大会の時にも出席された李尚映さんが遺物係長と云う要職にあって案内して頂きましたが、何分にも旧宮殿だけに小部屋が多く博物館としては使いにくい様でした。

此の建物の西側にこれと直角に、はじめから博物館として設計された建物があり、この二つが本館の中心ですがこれも昨年一杯で今は新らしく景福宮の横に建設された新館に移っているはずです。

この新館は約10億円ほどかけて作られたのですが、韓国風の感じの大きい建物です。

国立博物館の本館だけでなく公州の分館も1億の予算で本年度より建築がはじまるといっていますし、扶余分館は900万程で出来上り私の行った時には内部の展示を行なっておりました。

然し博物館を中心とした文化財行政の中での圧巻は慶州でしょう。慶州は日本で云えば大和、奈良に相当する歴史の街で約一世紀に亘って新羅の都であっただけに王陵が無数にあります。ソウルから京釜ハイウェイを高速バスで走り慶州の郊外に近づくと、古墳と云うには余りにも大きいが木は一本もなく緑の

草でおおわれた丘が沢山見られます。

その中には有名な黄金塚の様に金冠をはじめすべて黄金の装身具で埋もられた王陵もあり、出土品は博物館に納められているが未だ発掘調査の終っていないものがほとんどでした。次々に出土される資料のために現在使っている博物館の建物は昔の地方の役所の建物と云っても日本で云えば代官屋敷とでも云うものであろうか、古い建物も一杯になるので近く6億位かけて新館が出来るそうです。

案内してくれた職員の話では、発掘調査は仲々進まないが盗掘の心配はないから地下収蔵庫と思えば良いと云っていたが、これらの王陵の保存法も日本の様にその古墳だけを民有地のままで史跡指定などと云うものでなく、一番大きな5つの王陵の集まっている所など数百メートル四方をすべて国が買収して鉄柵を設け立派な公園にしているように、文化財保護のために慶州地区だけでも、この三年間に9億からの金が投入されている様で、私に関係のある東洋最古の天文台跡と云われる胆星台も写真で見たものは民家の間に建っていた様でしたが、行って見ると矢張り数百メートル四方が買収されて立派な公園になりつゝありました。

この様に文化財に対する並々ならぬ関心は韓国全土に亘って見られる事で行政上の博物館の位置づけも以前は文化公報部に属していたのが新らしく文化部が設けられてこれに博物館が属し文化公報部には文化財管理局が出来ております。日本の文部省に相当する文教部は学校教育だけを行なっている様で、行政上の形は日本より強力でかつすっきりしているようです。

博物館の専門職員である学芸員も以前は学室官と云っていたのが今は学芸研究官となり、教育職より研究職としての色合が強いようです。以上が国立博物館を中心とした韓国博物館の一端ですが

#### ・個人コレクションと大学博物館

日本には資産家の個人コレクションを中心とした、私立博物館が沢山あるが韓国にはこの種のものが全然ない。

然し個人コレクターは何人かあって立派なものを持っている様ですが何と云っても政情の不安、税制上の問題などがあって今までこれが一般に公開されることはありません。

然し政府のこうした文化財行政に対する並々ならぬ関心に刺激されたためか個人コレクターがコレクションを公開しようと云う気運が生れて来て、丁度私が行った時にはソウルの本館で日本でも知られている東洋陶器の名品を沢山持っている湖巖氏のコレクションが展観されておりました。

博物館の話に依るとこれを突破口にして今後個人コレクションの公開を積極的に進めて行く一方日本の様に税制上の優遇処置を設けて私立博物館が出来る様にしたいと云っていました。

公共博物館には国立博物館4館のほかは光州に市立博物館が一つあるが内容は大したことはないらしい。

ただ各大学には必ならずと云って良い程博物館があり私が訪ねたソウル大学にも立派なレンガ作りの2階建の建物に数々の資料が展示されておりました。そしてこれが日本の大學生にある博物館又は資料室のように学外に公開されないのでなく、立派な解説書も韓国語のハングルのものと英文のものが出来ていて有料で公開されている様です。

大学の博物館は学外との交流も多い様で、釜山では、たまたま商工会議所で開かれていた一般の美術品展示会に釜山大学博物館協議会と云う様な所からの花輪が飾ってありました。

#### ・科学博物館その他

市立名古屋科学館の稻月事務局長の話に依ると戦前は南山に科学館があったそうですが今はなくそのかわりソウル市の北端に近い所に小さいものがあったが今はこれが5階建

の大きなものに改築されて建物は完成しこの春の開館を目指して内部の飾りつけ最中でした。もちろん国立のものです。

そこには季朝時代に作られた測雨台（雨量計）も立派に保存されておりました。

この科学館のほかに日本で云う児童会館又は青少年センターとでも云うべき立派なものが南山にあり、子供達を中心に賑わっております。これは大統領夫人の陸英修女史を中心とする社団法人で1970年7月25日に出来たのですが、18階建の建物で上から廻転展望台、機械室、図書室、児童相談室と生活教室、美術室、音楽室、工作室、科学実験室、科学展示室、視聴覚室、事務室、ホール、歴史総合展示室、体育館、プラネタリウムなどの完備したもので利用者も多い様でした。

歴史総合展示室等を見ての感じでもいわゆる歴史上の偉人例えば科学者として測雨台を

作った人だとか芸術家として慶州石窟庵の石仏を彫った人、ハングルと称する韓国文字を創案した人や豊臣秀吉の朝鮮攻略の時、日本軍を打ち破った季瞬臣将軍だとか云う人の展示が多く愛国心や民族意識をかき立てる様な行き方が目につき戦争中の日本の教育を思い出させるものがあります。

#### ・おわりに

国費の半分近くを軍事費に投じ、私も校会がって行って来ましたが、ソウルの街から自動車で2時間も走れば機関銃で武装したジープに守られながら走るような前戦の板門店を控え京釜ハイウェイの中にも4箇所ほどファンтом戦斗機が離着陸出来るような緊急飛行場になる部分があるような戦時態勢下の韓国でこのような文化行政の進み方は私としては、むしろ驚きであったと云えます。

（豊橋向山天文台長）

## 昭和46年度事業報告

### (1) 研修会の実施

#### イ・県外研修会

日 時 昭和46年6月22日～25日

参 加 者 加盟6館外 16名

視察経路 北方文化博物館 → 佐渡博物館 → 相川郷土博物館 → 長岡市郷土資料館 → 長岡市立科学博物館

#### ロ・県内研修会

日 時 昭和47年3月8日

会 場 博物館 明治村

学芸職員研究発表

「資料の整理・分類・研究をめぐって」

熱田神宮宝物館学芸員 太田正弘

講 演 「韓国の博物館をめぐって」

豊橋向山天文台台長 金子功

参 加 者 加盟館8館 10名

### (2) 印刷物の配布

#### イ・「愛知の博物館」(ガイドブック)印刷

#### ロ・機関誌の発行

「東西南北」N.4 4~N.5 5

「愛知の博物館」N.1 8

(3) その他の会議

総 会 昭和46年5月28日

理 事 会 昭和46年5月28日、8月11日

編集委員会 昭和46年8月25日、12月14日

昭和47年1月21日、3月23日

## 昭和46年度決算書

### 収入の部

費目	当初予算額	補正額	現計予算額	決算額	差額不足	摘要
会 費	円 39,000	円 3,000	円 42,000	円 42,000	円 0	29館
県費助成金	300,000	0	300,000	300,000	0	
加盟館負担金	84,000	△ 34,000	50,000	50,000	0	
参加者負担金	28,000	100,000	128,000	128,000	0	8,000円×16名
雑 収 入	1,583	0	1,583	1,554	△ 29	預金利子
繰 越 金	10,417	0	10,417	10,417	0	前年度からの繰越金
計	463,000	69,000	532,000	531,971	△ 29	

### 支出の部

費目	当初予算額	補正額	現計予算額	決算額	差引残額	摘要
研修会費	円 15,900	円 120,100	円 136,000	円 136,000	円 0	県外 1回 県内 1回
印刷物費	65,500	264,500	330,000	329,490	510	「東西南北」「愛知の博物館」「愛知の博物館」(ガイドブック)
「文化財探勝会」費	56,000	△ 56,000	0	0	0	
「あいちの博物館展」費	240,000	△ 240,000	0	0	0	
会議費	36,900	△ 1,900	35,000	31,340	3,660	総会 1回 理事会 2回 編集委員会 4回

費目	当初予算額	補正額	現計予算額	決算額	差引残額	摘要
事務費	36,350 円	△15,350 円	21,000 円	15,763 円	5,237 円	
負担金	10,000	0	10,000	10,000	0	東海博負担金
予備費	2,350	△ 2,350	0	0	0	
計	463,000	69,000	532,000	522,593	9,407	

差引残額 9,378 円は 47 年度へ繰越

### 昭和 47 年度事業計画(案)

#### (1) 研修会の実施 年2回

博物館関係施設に勤務する職員を対象に行なう研修

#### (2) 印刷物の配布

##### イ. 壁新聞の配布

県下の小・中・高校生に配布 年1回

##### ロ. 機関誌の発行

「東西南北」 月1回

「愛知の博物館」 年1回

ハ. 「愛知の博物館」(ガイドブック) 増刷

#### (3) 「文化財探勝の会」実施 年1回

教職員を対象にし、県下の文化財めぐりを行なう。

#### (4) 文化講演会の開催

全国博物館週間(10月の第2週)行事として行なう。

### 昭和 47 年度予算(案)

#### 収入の部

#### 支出の部

費目	予算額	摘要	費目	予算額	摘要
会費	41,000 円	30館 41口 2,000円×11館 1,000円×19館	研修会費	15,000 円	講師謝金 10,000円 食糧費 5,000円
県費助成金	300,000		印刷製本費	202,000	壁新聞 40,000円、機関誌「東西南北」1,000円×12=12,000円 「愛知の博物館」10,000円、 「知の博物館」(ガイドブック) 70円×2,000=140,000円
加盟館負担金	90,000	3,000円×30館			

費目	予算額	摘要	費目	予算額	摘要
参加者負担金	円 26,000	研修会 200円×15名=6,000円 文化財探勝会 500円×40名=20,000円	「文化財探勝会」費	円 56,000	借料 4,600円 食糧費 200円×50名=10,000円
収入	1,500	預金利子	講演会 費	100,000	講師謝金 50,000円 会場費 10,000円 食糧費 20,000円 印刷費 10,000円 雑 費 10,000円
振越金	9,378	46年度からの深越金	会議 費	36,900	総会費 300円×35名=10,500円 役員会費 300円×8名×4回=9,600円 役員会出席者旅費 4,200円×4回=16,800円
			事務 費	34,000	消耗品費 5,000円 通信費 20円×30館×15回=9,000円 旅費 20,000円
			負担金	10,000	東海博負担金
			予備費	13,978	
計	467,878		計	467,878	

各費目は流用することができる。

## ~~~~~ 編 集 後 記 ~~~~

今年度は事業計画案のうち総会において印刷物によるPRに重点をおくという決定により、「あいちの博物館展」の開催をとりやめ、研修会、文化財探勝会、印刷物の作成配布を行なうこととし、理事会により担当館をとりきめました。文化財探勝会については担当館の都合でとりやめとなりましたが、研修会は県外・県内の2回行ない、印刷物「愛知の博物館」(ガイドブック)はようやく印刷のは

こびとなりました。

加盟館は岩田洗心館の入館により29館となりました。47年度にも入館予定館が2館あり、愛知県博物館協会も年々発展しつゝあるといえます。

皆様方のご協力により、さらに内容的にも向上発展をのぞむべく事業をすすめてゆく所存ですので、よろしくお願ひいたします。

愛知県博物館協会事務局

## 「愛知の博物館」 No.18

発行日 1972年3月

発行者 愛知県博物館協会

名古屋市東区久屋町8-8

愛知県文化会館内(電 052-971-5511)

編集者 愛知県博物館協会事務局